

保育実習における記録様式作成の試み (第1報)

幸 順子・秋田 房子

An Attempt to Construct a Record Style in Childcare Practices

Junko YUKI and Fusako AKITA

．はじめに

今日、女性の社会参加の増加、少子高齢化や家庭の養育機能の希薄化などにより、保育への期待が高まっている。また、保育士資格が名称独占資格として法定化され、4年が経過した。保育士養成校に、保育士の専門性に関する教育を行い、多様化した保育需要に対応し得る効果的な指導の方法を構築し、これを質的にも充実させることが求められるようになった。このことは、新たに参入した養成校のみならず、全養成校共通の課題である。

このような現状の中で、保育実習は全教科の総合的知識・技能と実践応用力が必要とされるので、実習の事前指導の充実・強化や実習施設の多大な協力・指導と共に、実習施設・養成校・実習生の緊密な連携が求められている。そして、学生自らが学んだ理論・知識を実践で確かめ、理論と実践の相互関係を体験によって気づける重要な機会に実習をしていく必要がある。その気づきを促すひとつの素材として実習記録が上げられる。現在、保育実習で使用する記録の内容・様式については、全国の各養成校においてまちまちであり、実習指導担当者に委ねられているのが現状である。

．研究の目的

本学、短期大学部保育学科が、今年4月に開設され、実習指導担当者として、本学科の教育目的及び内容を把握しつつ、新たな実習指導・記録の作成等を検討していた。その過程において全国保育士養成協議会専門委員会より、「保育実習指導のミニマムスタンダード試案」が提案された。そこで、それらも参考にしながら、実習記録として本学独自の創意工夫をし、保育所・施設と大学で連携活用できる実習に必要な記録一式の作成を試みた。

本研究の目的は、第一に実習の意義と目的を明らかにし、実習記録の基本的な考え方を検討することである。第二に、それに基づき記録様式を作成し、その成果を明らかにすることを目的とする。さらにこれを用いて、事前・事後指導、事前訪問、実習、評価等の実習過程で活用し、実習実施後は、実習目的、内容・方法と合わせて実習生、保育者の意見を参考に様式の修正を行い、今後の実習指導及び実習に活かす予定である。なお、実習記録と合わせて実習の手引きの作成を行っているが、本研究では、実習記録の作成のみを報告する。

．研究の方法

研究期間：2005年4月1日～9月30日

方法：これまでに経験した実習指導の評価・反省・考察と、実践現場での聞き取りおよび文献研究から総合的考察をして（文献1～12）記録の考え方を検討し、各記録の内容・様式の作成を試みた。

．研究の結果と討論

1．記録作成の意義

実習では、実習の意義と目的をふまえ「目標」が設定される。さらにそれに基づいて総体的な「実習の考え方」が明確にされ、実習の段階を追って、「ねらい」、「内容」が設定されることが望ましい。実習の「目標」、「ねらい」、「内容」は、保育実習（ ）、（ ）、（ ）の中で具現化されるように指導することが望まれるが、その際、実習記録は「目的」を具現化するための手段でもあり、現れでもある。言い換えると、各々の実習生は実習記録でそれぞれの目標と体験を明らかにし、その客観化された記述から再び学ぶことになる。実習指導では、この記録をより適切に活用できるように指導を行う必要がある。そのために、本研究では、保育実習の総合的な考え方に基づき、段階別・種別（保育実習 ）、（ ）、（ ）の「実習の目標と内容」に即した記録を作成することを試みた。

2．保育実習の意義と目的

記録を作成するにあたって、まず、保育実習の意義と目的、方法を明確にすると次のようになる。

(1)保育実習の意義

保育士の職務は、児童の心身の発達や育児支援に直接関わるという重要な仕事であり、重い責任を負っている。したがって、その責任を果たすためには、児童の心身の発達に関する諸理論及び福祉・支援論と、それらを具体化していける専門的・実践的な知識や技術を修得しておかなければならない。保育実習は、その修得した教科全体の知識・技術を基礎とし、実習の体験をとおして、行動の意味づけを追求し、実践と理論の関係を学び、さらには自分自身の児童観、保育観、福祉観の形成といったものに結びつけることや、あるいは自らの理論や知識の不十分さ、学習不足を認識し、今後の学習や研究の課題を明確化させるところにその意義がある（保育士養成講座編纂委員会2005）。

(2)保育実習の目的

次に、保育実習の目的は、次のようにまとめることができる。

利用者についての理解、児童福祉施設についての理解、保育士の職務と役割の理解
実践を通じた養護・保育（ケア）技術の修得、保育者としての自己理解・自己洞察及び新たな学習課題の発見と卒業後の進路選択の資料の獲得、保育者としての自分自身の児童観・保育観・福祉観の形成等、体験を通して主体的に学習することが必要となる（保育士養成講座編纂委員会2005）。

(3)保育実習の履修方法

保育実習は、保育実習実施基準（平成15〔2003〕年12月9日厚生労働省雇用均等・児童家庭

局長通知）によると、「保育実習（5単位、うち、保育所・施設実習合わせて4単位、事前・事後指導1単位を含む）」が必須、「保育実習（2単位）」、「保育実習（2単位）」はどちらか1つが選択必須である（表1）。

表1 保育実習履修の方法（平成15〔2003〕年12月9日厚生労働省雇用均等・児童家庭局長通知による）

実習種別	履修方法		実習施設
	単位数	施設におけるおおむねの実習日数	
保育実習（必修科目）	5単位	20日	（A）
保育実習（選択必修科目）	2	10日	（B）
保育実習（選択必修科目）	2	10日	（C）

実習施設の種別は、次によるものであること。
 （A）…保育所及び乳児院、母子生活支援施設、児童養護施設、知的障害児施設、盲ろうあ児施設、肢体不自由児施設、重症心身障害児施設、情緒障害児短期治療施設、児童自立支援施設、知的障害者更生施設（入所）、知的障害者授産施設（入所）、児童相談所一時保護施設又は独立行政法人国立重度知的障害者総合施設のぞみの園
 （B）…保育所
 （C）…児童厚生施設又は知的障害児通園施設その他社会福祉関係諸法令の規定に基づき設置されている施設であって保育実習を行う施設として適当と認められるもの（保育所は除く）。

3．保育実習と記録作成の基本的考え方

前述の保育実習の意義と目的、方法を踏まえ、実習指導の基本的な考え方を実習の段階別、種別に示すと、具体的なねらい・目標及び内容は次の通りである。これらを記録作成の基本的考え方とする。

（1）事前・事後指導の考え方

厚生労働省から2003（平成15）年12月9日付で通知された「指定保育士養成施設の指定及び運営の基準について」によると、「保育実習（保育所・施設を含む）」[本学の表記では、保育実習1A（保育所）保育実習1B（施設）としている。以下、保育実習 とする。] 及び「保育実習指導」（1単位）の「ねらい・目標」及び「内容」は次のようにまとめることができる。（社団法人全国保育士養成協議会専門委員会2005）

「保育実習（保育所・施設を含む）」（合わせて4単位）の「ねらい・目標」

ねらい・目標

児童福祉施設の内容、機能等を実践現場での体験を通して理解させる。

既習の教科全体の知識・技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用力を養う。

保育士としての職業倫理と子どもの最善の利益の具体化について学ばせる。

「保育実習指導（事前・事後指導）」（1単位）の「ねらい・目標」と「内容」

ねらい・目標

保育実習を円滑に進めていくための知識・技術を習得し、学習内容・課題を明確化するとともに、実習体験を深化させる。

内容

事前指導として学内において講義や視聴覚学習などを用いた演習を行い、また実習施設において見学・オリエンテーション等を行う。とりあげる内容は次の通りである。

1）保育実習の意義・目的・内容の理解。

2）保育実習の方法の理解。

3）実習の心構えの理解。特に個人のプライバシーの保護と守秘義務、子どもの人権尊重についての理解。

4) 実習課題の明確化。

5) 実習記録の意義・方法の理解。

6) 実習施設の理解

実習中に巡回指導を行い、実習施設の実習指導担当者との連携のもとに、実習生へのスーパービジョンを行う。

実習終了後に、事後指導として実習総括・評価を行い、新たな学習目標を明確化させる。

事前・事後指導の基本的な課題としては、学生に事前・事後指導の具体的内容を的確に理解させること、学生の主体的な学習を次の学習に連動・継続させること、個別的な指導も視野に入れた事前・事後指導であること、「保育実習」「保育実習」の事前・事後指導にも共通すること、養成校と実習施設との連携を意識することである（社団法人全国保育士養成協議会専門委員会2005）。

(2) 「保育実習（保育所）」・「保育実習」の考え方

「保育実習（保育所）」と「保育実習」の共通項は、実習生が保育所で日々営まれる保育、いわゆる通常保育と呼ばれる活動に参加することである。「保育実習（保育所）」は、保育所で生活を営む乳幼児への理解と保育所の機能やそこで働く保育士の職務について学ぶことをねらいとしているが、「保育実習」では、それを踏まえたうえで、実習経験の集大成である指導実習を行う。さらに、家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉ニーズに対する理解、判断力を養い、子育てを支援するために必要な能力を養うところまでの水準が求められている。

「保育実習（保育所）」・「保育実習」の「ねらい・目標」と「内容」をまとめると次のようになる。（社団法人全国保育士養成協議会専門委員会2005）

「保育実習（保育所）」（2単位）の「ねらい・目標」と「内容」

ねらい・目標

保育所の生活に参加し、乳幼児への理解を深めるとともに、保育所の機能とそこでの保育士の職務について学ばせる。

内容

実習施設について理解させる。

保育の一日の流れを理解し、参加させる。

子どもの観察や関わりを通して乳幼児の発達を理解させる。

保育計画・指導計画を理解させる。

生活や遊びなどの一部分を担当し、保育技術を習得させる。

職員間の役割分担とチームワークについて理解させる。

記録や保護者とのコミュニケーションなどを通して家庭・地域社会を理解させる。

子どもの最善の利益を具体化する方法について学ばせる。

保育士としての職業倫理を具体的に学ばせる。

⑩安全及び疾病予防への配慮について理解させる。

「保育実習」（2単位）の「ねらい・目標」と「内容」

ねらい・目標

保育所の保育を実践に実践し、保育士として必要な資質・能力・技術を習得させる。

家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を養うとともに、子育てを支援するために必要とされる能力を養う。

内容

保育全般に参加し、保育技術を習得させる。

子どもの個人差について理解し、対応方法を理解させる。特に発達の遅れや生活環境にともなう子どものニーズを理解し、その対応について学ばせる。

指導計画を立案し、実際に実践させる。

子どもの家族とのコミュニケーションの方法を、具体的に修得させる。

地域社会に対する理解を深め、連携の方法について具体的に学ばせる。

については、「保育実習（保育所）」の ⑩ に同じ。

保育所の保育士に求められる資質・能力・技術に照らし合わせて、自己の課題を明確化させる。

(3) 保育実習（施設）・保育実習 ⑩ の考え方

「保育実習（施設）」と「保育実習 ⑩」は、「保育所以外の様々な種別の児童福祉施設、あるいは社会福祉施設がその対象となる。」「保育実習実施基準」における履修方法（表1）に示されているように、保育実習（施設）では、乳児院、母子生活支援施設をはじめとする住居型の実習施設での実習となる。さらに「保育実習 ⑩」では、児童厚生施設をはじめ他の社会福祉施設諸法令に基づき設置されている施設での実習が含まれ、その実習施設の種別はさらに広範囲に亘っている。

「保育実習（施設）」・「保育実習 ⑩」の「ねらい・目標」と「内容」をまとめると次のようになる。（社団法人全国保育士養成協議会専門委員会2005）

「保育実習（施設）」（2単位）のねらい・目標と内容

ねらい・目標

住居型児童福祉施設の生活に参加し、子どもへの理解を深めるとともに、住居型児童福祉施設等の機能とそこでの保育士の職務について学ばせる。

内容

⑩については、「保育実習（保育所）」に同じ。

養護の一日の流れを理解し、参加させる。

援助計画を理解させる。

生活や援助などの一部を担当し、養護技術を習得させる。

「保育実習 ⑩」（2単位）のねらい・目標と内容

ねらい・目標

児童福祉施設（保育所以外）その他社会福祉施設の養護を実際に実践し、保育士として必要な資質・能力・技術を習得させる。

については「保育実習 ⑩」に同じ。

内容

養護全般に参加し、養護技術を習得させる。

については、「保育実習 ⑩」に同じ。

援助計画を立案し、実際に実践させる。

については、「保育実習（保育所）」の ⑩ に同じ。

児童福祉施設等の保育士に求められる資質・能力・技術に照らし合わせて、自己の課題を明確化させる

以上、記録作成の前提について述べたが、それぞれの目標や内容が反映されるように記録作成を試みた。

名古屋女子大学紀要 第52号 (人文・社会編)

樣式1

＜実習先提出用＞
ピー一部大学提出
ファイルに各自保存

記入日 年 月 日

実習の目標と取り組み		実習園・施設名	
		実習日	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> 年 月 日 </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> 年 月 日 </div>
<p>1. 実習の意義</p> <p>めざす保育者像、保育への役割を考え、実習への動機と結び付けて記入してみる。</p> <p>実習にあたって、どんなことを(目標)、どんな取り組みをして(具体的な方法や手順)をして、体験学習したのかを明らかにする。</p>			
<p>2. 実習の目標</p> <p>例えば、①保育所・施設の役割・機能の把握</p> <p>②子どもの理解</p> <p>③保育の内容・方法</p> <p>④保育の実践と展開</p> <p>⑤子どもの発達と保育者の援助</p> <p>⑥保育者の役割・仕事</p> <p>⑦子どもの生活・遊びと環境構成について</p> <p>⑧保育の計画と評価・記録の仕方</p> <p>⑨その他、実習したい内容の目標など</p> <p>以上の例を参考に、目標の設定理由も含め具体的に説明をする</p>			
<p>3. 目標を達成するための具体的な方法や手順・考え</p> <p>上記の実習目標を達成するための具体的な実習方法(見学・観察・参加・部分・指導実習など)や心構えを記入する</p>			
<p>4. 実習へのお願い</p> <p>ご指導していただきたい事柄や、お願いを記入する</p>			

- ② 1. 原本元紙は、事前訪問日に保育園・施設に提出すること。
2. コピーを2枚とり、1枚は各自保存し、1枚は大学へ提出すること。

名古屋女子大学短期大学部

様式9

実習園・施設の周囲の環境		記入日	年	組	月	日
		氏名				
園名 施設名			園長名 施設長名			
住所	〒					
		電話番号 () -				
最寄りの交通機関名 及び駅名（バス路線も含む）		徒歩： 分				
環境上の特徴（立地条件等） 園のまわりの物的環境、立地条件等 地味の特徴など実習をしていくうえで参考となる事項						
地図		方向に留意し、実習園・施設を中心に周囲の環境を記入すること 特に最寄りの交通の駅名、など詳しく正確に記入すること				
<div style="text-align: right;">北 ↑</div>						
園・施設内の環境図（見取り図）						
実習上参考となることを考慮し、記入しておく。 実習をしていく上で、参考となるよう建物・施設内の見取り図を記入する。 設備、道具、備品、木々など具体的に記入のこと。						

名古屋女子大学短期大学部

様式9

記入日 年 月 日

実習園・施設の周囲の環境		年 組 番号	
園 名 施設名		氏 名	
		園長名 施設長名	
住 所	〒 _____ 電話番号 () _____ - _____		
最寄りの交通機関名 及び駅名（バス路線も含む）		徒歩： _____ 分	
環境上の特色（立地条件等） 園のまわりの物的環境、立地条件等 地域の特色など実習をしていうえで参考となる事項			
地図	方向に留意し、実習園・施設を中心にして周囲の環境を記入すること 特に最寄りの交通の駅名、など詳しく正確に記入すること		
<div style="text-align: right;">北 ↑</div>			
園・施設内の環境図（見取り図）			
実習上参考となることを考慮し、記入しておく 実習をしていうえで、参考となるよう園・施設内の見取り図を記入する 図章、道標、看板、木々など具体的に記入のこと			

名古屋女子大学短期大学部

樣式1

記入日 年 月 日

<h1>実習するクラスの様子</h1> <p>(実習中に入った全クラスの様子を記入する)</p>		年 組	番 号
実習クラス	組 (歳 児)	氏 名	氏 名
担 任	先生	先生	
クラスの 保育目標	日 課 表		
	時 間	こ ども の 活 動	
クラスの 子どもの 様子	クラスの子どもの様子を記入する ① クラス全体の姿、クラスの子どもの発達の特徴 (こころ、人間関係、身体発育、表現、健康、環境へのかかわり等) ② 気になる子どもの行動、態度 ③ その発達傾向に気配りのある子どもの様子等 ④ 子どもの生活・遊びの様子と情緒の発達等		① 目標表として参 照から目標達成の特 殊な活動や記入のこ と ② 早期療育、延長 保育なども合わせて 記入しておく
	クラスの保育又はグループ・個人の保育で配慮すべき事項を記入する		③ 毎日振り返り活 動 ④ 一日の中心めと なる活動 ⑤ 自由な遊びも含 む
保育の 配慮事項	見取り図(保育室内) ●食品、道具、飲料等の配置も分かりやすく記入し、 実習の参考にする		
クラスの 物理的環境 見取り図 (保育室内)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 「子どもと環境とのかかわりから生まれる活動や、かかわりの様 子等について」を記入しておく、環境設定の意味・意義の理 解・実践、指導計画作成に役立つ </div>		

名古屋女子大学短期大学部

様式13

名古屋女子大学短期大学部名古屋女子大学短期大学部

謝靈運詩集卷之六

名古屋女子大学短期大学部

図 1 - 2 作成記録様式^{12・13・16・17}

表2 保育実習の段階と記録の種類・工夫

段階	様式	記録の種類・内容 (記録の内容については、資料の様式の記入項目を参照)	記録の工夫
事前指導	1	実習の目標と取り組み	実習を円滑に進めていくための実習の動機、目標、内容、具体的な方法や心構えを項目ごとに記入し、実習体験を学生目らが目的的に行動できるような記録とした。
	2	実習生個人票	学生の住所、交通機関、福祉活動の経験等、実習生個人のプライバシーを尊重し、また情報義務の主旨に差し支えないよう記入できるよう配慮した。
	3	実習出席簿	実習先のコミュニケーションのきっかり作りにも役立つように試みた。(施設より実習後返却してもらう)
	4	実習指導訪問連絡用紙	毎日、出勤の押印をし、社会人としての勤務の責任と自覚を促す。(返却依頼)
			大学の教員に実習指導訪問を依頼し、学生、実習先と三者が話し合い、実習の充実・進捗をはかるための記録である。
			実習生の住所、連絡先を明記し、実習先の行事、伝言等を訪問時記入し、教員に参考となるようにするとともに、相互のコンタクトを的確に取りやすくするようにした。
			学生の交通手段も事前に選択し、同行する実習生とも連携を取りやすくなるよう試みた。
	5	実習までの履修状況	実習に出るまでの履修状況、実習科目を実習先に理解してもらい、指導の参考にし、活用してもらうために載せたものである。
	6	実習園・施設での事前訪問の記録	学生が事前訪問をして、実習先の事前指導を受け、実習予定、実習の仕方、行事、打ち合わせ内容を把握・理解し、確認しながら実習が充実していくように促す記録とした。
	7	実習予定表	また、大学へも報告できるようにした。 日々の配属クラス、主な実習内容、行事等を把握して、実習計画の全体的な内容を実習先と相談して立案する。計画的な実習と、見直しをもって行動できるようながけるための記録である。 狭いが備考欄を設け、必要なことが記入できるように試みた。
	8	実習園・施設概要	実習先の住所、沿革、保育(養護)目標、方針、クラス名、クラス編成、職員構成、その他特記事項について記入し、実習先の概要が理解できるようにした。 保育の基本となる目標・方針、特に人的環境の構成について理解し、実習に役立てることができるよう工夫した。
	9	実習園・施設訪問時の環境	実習先の周囲の環境について記入し、交通機関、環境上の特色、地図、施設内外の物的環境の概観が理解できるようにし、実習に役立つように試みた。
	10	欠席届	実習中欠席した場合、実習先に届ける。職務上の事務書類の記入を依頼するとともに、追加実習の依頼を行えるよう配慮した。

実 習 中	見 学・ 観 察 実 習	11	実習するクラスの様子	実習中に入る全クラスの主な実情を記入できるように試みた。そして、クラスの保育目標、子どもの様子、保育の配慮事項、クラスの物的環境の見取り図（室内）、一日の活動の流れを把握し、保育と環境の意味・意義を考察し、計画・実践に役立たせよう試みた。
		12	見学・観察実習用記録用紙	見学・観察実習後に記入するもので、実習生の実習のねらいを明確にし、保育のねらいを把握する。保育実践を時間の流れに追い、感じたこと・気づいたこと・考察したことを具体的に記入し、学習観点とその受けとめ・反省に学生自らが気づいて翌日の実習の課題がつかめるよう工夫した。特に感覚体験と気づき・発見、考察の思考、つまり実践と理論の関わりを確認できるように工夫をした。
				具体的な項目の記入視点は資料の様式を参照。実習先の指導を記入してもらい、日々の自習の深まりと次の実習への励みや見通しがもてるように試みた。
		13	参加・指導実習用記録用紙	⑬と合わせ実習後、保育を学ぶ手立てや確認をしながら自己課題の達成・努力につながらるようにした。 実習生が子どもと直接関わる保育指導案を実習先の指導を得て作成し、体験保育後に書く記録である。参加・指導実習とはいえ、一部指導を得ながら実習するので、保育者の活動・援助と実習生の活動・援助を区別して記入・考察するように試みている。
				⑭と同様、具体的な記入視点は資料を参照。⑭⑮とも工夫点は活動ごとに考察・気づきを取り入れ、一日の全体的な考察には実習から「学んだこと」を記入できるように工夫し、保育の総合的考察ができるように試みた。
		14	子どもを見つめて（個人の記録）	個人を記録する際に継続的に観察や気づき・考察が記入できるようにした。又、記述のポイントになる見出しをつけ、読む人に分かりやすく工夫した。
		15	自由記録用紙	守秘義務の主旨を理解し、個人名は記入しない。紛失しないよう、保管にも留意する。
		16	指導案	自由記録用紙として、自由に線を入れ用途に従って記入できるように工夫した。
				指導案は、事前指導で立案の仕方を指導し、一部または指導実習に活用できるように試みた。中でも、実習後の評価・反省・考察は、活動毎又、全体についてでも記入できるように工夫してある。
		17	実習を終えて	一週間毎に記入し、実習で感じたこと、気づいたこと、発見したこと、反省事項等を記入し、今後の課題につなげて事後学習に発展していけるように自由記述欄を設けた。
事 後 指 導		18	実習反省会の記録	実習先の反省会の貴重な指導内容を記入し、今後の学習の目安をつかみ、自己変換につながる記録とした。
		19	実習関係資料	実習先で参考資料として入手した園だより、クラスだより、指導計画などを、実習中及び、事後の学習の参考としたり、実習報告会、事後指導で活用できるような項目を名づけて、整理して綴じ込めるように工夫配慮した。
		20	報告書	実習後大学での報告会、及び後輩へ伝達したいことを記録し、個人の实習を全体で共有し、保育実習の深化・発展につなげる記録として役立てられるよう工夫した。
		21	大学での保育実習指導ノート	大学での実習の事前、事後指導の内容を記録し、保育に真剣に取り組むために準備、後始末をし、着実に実習に取り組めるようにした。この記録は、記録の都度、指導担当者の確認印を押し、記録者と指導担当者との相互のやり取りを通して、学習したこと及び指導内容を記述できるよう工夫した。

4. 保育実習の段階と記録の種類及び工夫

保育実習は、その目的を達成するため、おおまかに事前指導、見学・観察実習、参加・指導実習、事後指導に段階的に区分される。各段階を通して作成した記録の様式は21種類に及ぶ。その一部を図1-1、図1-2に示す。また、各段階ごとに、作成した記録の種類・内容、および工夫について、表2に示す。

各様式内の記入項目は図1-1、1-2を参照のこと。記録の全体的な工夫は次のとおりである。

- (1) 記入日を各記録に示した。
- (2) 実習に関する記録・書類をすべて一覧にして、提出先・期限を明らかにした(図2)。

	項目(注意事項)	提出先		期限(厳守)	
		実習先	大学		
事前指導	① 実習の目標と取り組み コピーをファイルに保存	原本1(事前訪問時)	・保育実習指導室 ⑤ コピー1 ・実習指導訪問教員 ⑦ コピー1	月 日	月 日
	2 実習生個人票	原本1(事前訪問時)	・ ⑤ コピー1 ・ ⑦ コピー1	月 日	月 日
	3 実習出席簿	原本1(事前訪問時)		月 日	
	4 実習指導訪問連絡用紙		・ ⑦ 原本1 (事前訪問後)	月 日	
	⑤ 実習までの履修状況表				
	⑥ 実習園・施設での事前訪問の記録				
	⑦ 実習予定表	実習担当者		実習初日に実習先に提示	
	⑧ 実習園・施設概要				
	⑨ 実習園・施設の周囲の環境				
	10 欠席届 細菌検査(検便)結果書	欠席時原本を提出			
事中指導	⑪ 実習するクラスの様子	実習担当者		配属クラスが変わった毎に提示	
	⑫ 見学・観察実習用記録用紙	実習担当者		毎日(翌朝)	
	⑬ 参加・指導実習用記録用紙	実習担当者		毎日(翌朝)	
	⑭ 子どもを見つめて(個人の記録)	実習担当者			
	⑮ 自由記録用紙	実習担当者			
	⑯ 指導案	実習担当者		指導実習をする数日前に指導を得て提出	
	⑰ 実習を終えて	実習担当者		1週間毎に記入し提出	
	⑱ 実習反省会の記録	実習担当者		実習終了後提出	
	⑲ 実習園関係資料				
事後指導	20 報告書			実習終了	
	21 大学での保育実習指導ノート			実習終了後	

★「保育所実習記録」は、○で囲んだ項目の内容を整えてファイルに綴じ、実習終了後ただちに実習先へ提出すること。

★上記のファイルに20, 21の記録を付け加えて、実習終了後20日以内に保育実習指導室へ提出すること。

図2 実習に関する書類について

- (3) 各実習の種類ごとに表紙を作成し、実習後、冊子にして活用しやすくした。
- (4) 全実習の記録用紙を一冊に綴じ込み、実習の記録が他の実習に汎化、応用、発展、深化し、保育・福祉の実習が相互に関連し合った実習として考察が出来るよう試みた。又、一冊にまとめることで、実習のすべての用紙を使用目的に応じて選択することのできるよう作成を試

みた。

(5) 事前訪問の準備、実習、評価、まとめ・事後指導等実習の経過を追って、一連の継続順に用紙を並べた。その都度、実習目的・実習段階」に従って必要な書類が選択できる。

学生が日々の実習を根気よく記録することを通して、実習先で自己の反省・評価を行い、また指導を得て、自己の成長や、保育の実践と理論の統合に果たす記録の役割に自ら気づき、さらには、その後の学習の意欲づけや深化に繋げていけることを期待する。

．要約および課題

以上をまとめると、実習の基本的考え方を明確にし、実習記録の目的を基に実習記録様式を作成した。作成上配慮した点は、保育所と施設に併用できる、実習に必要な記録一式を作成し、かつ実習に有効に活用できるようにすることであった。

作成した記録様式をもとに、実習の意義と各記録の必要性及び記入の仕方について実習指導を十分に行い、実習生が主体的に実習に取り組み、保育を深めていくことができるようにすることが今後の課題である。また「実習の手引き」を完成し、それと合わせて指導をしていくことがより円滑に実習を進めて行くことになるであろう。さらに実習に活かせるカリキュラム構成を検討し、指導時間の充実も含めた事前・事後指導の強化を図ることも重要である。

．おわりに

今年度4月から本学保育学科が開設された。そして国家資格として保育士資格を得るための実習教科として「保育実習Ⅰ」「保育実習Ⅱ」「保育実習Ⅲ」がある。本学の教科としては「保育実習指導（保育所・施設）Ⅰ」「保育実習1A（保育所）Ⅰ」「保育実習1B（施設）Ⅰ」「保育実習Ⅱ」「保育実習Ⅲ」がありその指導を担当しているが、前期、「実習の手引き」や「記録用紙」が十分に整わないままであった。勿論、実習の基本である目的、内容、方法、心構え、準備、教材については事前指導をしたが、具体的な記録用紙の作成とその書き方については未指導である。この半年間、実習の記録様式・手引きの作成と授業とを平行して、心焦りながらも努力してきた。授業教材の作成の研究として、今日の保育所・施設の現状に即し、かつ保育・養護の基本をおさえて、学生が活用し易い、実習記録用紙の作成と手引きの作成を研究してきた。本研究では、前述したようにその一部である「記録様式の作成」のみを報告した。

．謝辞

本研究における記録様式を作成するにあたって、貴重な資料・情報をご提供下さいました愛知県下の保育所・施設の皆様方及び同朋大学社会学部の井上薫先生、栗田春香さんに心よりお礼申し上げます。

本研究の実習記録作成にあたっては、本学職員の島田有紀さんの協力を得たことを記し、謝意を表します。

．文献

- 1) 大場幸夫・大嶋恭二編 新・保育講座⑬保育実習 ミネルヴァ書房（2004）
- 2) 岡崎女子短期大学実習センター 実習の手引き 岡崎女子短期大学幼児教育学科（2000）
- 3) 社団法人全国保育士養成協議会専門委員会編 保育実習指導のミニマムスタンダード 社団法人全国保育士養成協議会（2005）
- 4) 玉井美知子監修、高玉和子・浅見均編 資格取得に対応した保育実習 学事出版（2002）
- 5) 同朋大学社会福祉学部 施設保育実習記録
- 6) 同朋大学社会福祉学部保育士課程 保育実習の手引き
- 7) 同朋大学社会福祉学部 保育所保育実習記録
- 8) 二階堂邦子責任編集、菅田栄子・福田理文他著 教育・保育・施設実習書（2004）
- 9) 林陽子総編集、秋田房子・大岩みちの他編 保育者へのステージ 保育・教育実習から学ぶ 愛智出版（2003）
- 10) 平岩定法編 改訂教育・保育ニューハンドブック 宣協社（1995）
- 11) 保育士養成講座編纂委員会編 改定・保育士養成講座2005第10巻保育実習 社会福法人全国社会福祉協議会（2005）
- 12) 待井和江・福岡貞子編 現代の保育学 6 保育実習・教育実習〔第4版〕 ミネルヴァ書房（2005）